

【奈良文化幼稚園】令和6年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

教育目標	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちができ 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
------	---

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画・教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し共有できたか。	「遊びこそ学び」を基本理念とし、「心と体」の成長を促す教育を0歳から5歳まで実施し、それぞれの年齢に合った保育を展開した。	A	A	日々の園生活を通して、一人ひとりの育ちが認められるよう職員が一丸となって日々の保育に取り組んだ。	園児が学年を超えて仲良く遊ぶ姿がみられる。園での生活についてもQRコードを使った配信を行い、保護者に園での様子を伝えている。
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、遊びの環境を充実させる。	園庭の環境は、子どもたちの活動に応じて継続的に調整している。腐葉土や燐炭、畑の土を取り入れて、柔らかい土壌を作り上げた。講師の指導のもと、環境の整備を行っている。	B		園児が遊びやすい環境・遊具になるよう講師の指導を受けている。教員それぞれがアイデアを出し、よりよい環境になるよう努めている。	園庭の土壌は、時間の経過や子ども供の遊びにより劣化が進む。そこで、専門家を含むプロジェクトチームを結成した。彼らの助言をもとに、環境の整備を進めていきたい。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	一人ひとりの発達特性を踏まえ、園生活全体を見通したねらいと内容を作成できたか。	「わんぱくの森」での活動を基盤に、各学年の発達段階に応じた取り組みを推進し、教育要領に則った指導計画を策定した。	A		職員間の話し合いを通して園児を把握し、発達段階に応じた個々の教育指導計画の作成に取り組んだ。	園児の発達を理解するために、きめ細やかな取り組みを実施することが重要である。日々、園児が積極的に活動できる環境を整えていきたい。
		④教育活動の評価	園での幼児の姿を共有し、教職員が、園児の体力向上を目指した教育活動を行ったか。	園児の年齢ごとの特性を把握し、園児の活動を評価する。職員の指導によって活動範囲が広がった。	A		クラスや学年の教育活動の中で園児がのびのびと活動を行うことができた。	園児の実態を踏まえた取り組みについて議論を重ねてきた。園児を見つめた取り組みを継続していきたい。
		①基本的な生活指導	一人ひとりが自分の体を守るための生活習慣が身につくように指導する。	園児が快適に生活できるように努めた。また、家庭との連携を強化し、保護者に園の様子を詳細に伝えることで信頼関係の構築に取り組んだ。	A		園児が日々の生活を意識できる実践を行った。写真付きのたよりを配信することで、個人やクラスの様子を保護者に伝えることができた。	園全体で子どもの実態を踏まえた取り組みについて議論を重ねてきた。今後も園児中心の取り組みを実践していきたい。
		②環境を通して行う活動の充実	見通しを持って環境改善を行い年齢に応じた活動を展開することができたか。	新しい遊具を作成し子どもたちの遊び環境を整備した。興味や関心を高めることで、活発な活動ができるように工夫した。	A		1人ひとりが遊びこめる環境を整え、興味・関心を持って主体的に活動できる環境づくりを心がけた。	クラスや学年、年齢に応じた取り組みを展開している。活動が活発に広がる環境を整えていきたい。

I 教育活動に関するもの	(2) 指導の状況	③個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解し、個に応じた指導を展開する。	複数の職員が園児を詳細に観察することにより、個々のニーズに応じた指導方法をさぐることが可能となった。	A	A	個々の成長や発達に応じた指導のあり方を考えた。計画を実践に移すことで成長が感じられようになった。	教職員が子どもの発達段階を理解することで、一貫した指導が行えるように研修し、共通理解を深めたい。
		④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動し、充実感を味わうような指導を行うことができたか。	子どもたちの興味や関心を理解し、彼らが自発的に考えた遊びを実践することができた。	B		自由保育と設定保育のバランスを考えながら、一日の中で体を動かして遊びこむ時間を大切にした。	自ら遊びが創造できるよう、取り組みたい。また、教員が各個人の様子が把握できるよう話し合いを進めたい。
		⑤園行事	園児主体の行事運営ができたか。	保護者出席のお誕生日会やコーラス部さんの園での活動を実施した。保育参観や音楽会、卒園式も家庭の出席人数を増やして行うことができた。	A		保護者出席の行事を増やすことで積極的に園の様子を発信するよう努めた。	保護者の理解を深めるために、園の行事を工夫し、より開かれた幼稚園を目指していきたい。
		⑥体力作りを目指す取り組み	健康元気給食の実施により健康な体作りを目指すとともに、子どもが夢中になる遊びを展開する。	毎週の体育あそびを通じて、日常の遊びも活発に動く様子がうかがえる。また、健康元気給食の導入により、玄米や納豆をよく噛んで食べるようになった。	A		食事によって健康な体作りを目指すとともに日頃の遊びを見直した。子ども達が積極的に体を動かす姿が見られた。	今後も講師による研修を行い、知識を深め、職員のスキル向上に努めていきたい。給食では、よく噛み、残さず食べる習慣を維持していきたい。
		⑦地域での教育活動の充実	地域とのつながりを保育に活かすことができたか。	葛城市の幼稚園・小学校との交流を2回に分けて行い、絵本の読み聞かせや鬼ごっこ等遊びを楽しんだ。 みどりの幼稚園では奈良文化高等学校に出かけ自然を楽しんだ。	A		地域の幼稚園との交流する機会を持つことにより理解が深まり、進学に向けて小学校を知るよい機会となった。	葛城市内の幼稚園・小学校との交流を促進し、園外学習を通じて地域との関わりを深める機会をさらに増やしていきたい。
		⑧夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	夢中になれる遊び環境を設定し、自由に選択する機会を充実できたか。	遊びの動線を見つめ、遊びの環境を整備することができた。園庭の土壌改良を実施し、園児の自由遊びの質を向上を目指した。	A		玩具の数を増やし、置き場所を工夫した。園庭の土の改良によりふかふかの園庭を目指した。園庭はけがを防ぐ状態に近づいた。	子どもたちが自然環境の中で活発に活動できるよう、園庭の土の配合を検討し、土壌改良をしていきたい。
		⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本の読み聞かせを1日1回することで子ども達が落ち着いて話を聞くことができる機会がつくれたか。	保育時間に絵本に触れる機会を設けることにより、子どもたちの絵本への関心が高まった。毎日1冊以上の読み聞かせにより、絵本の魅力が伝わり貸し出し数が増加した。	A		読書カードに読んだ本を記入することで、自分の頑張りが見え、意欲を育てることができた。ポプラの部屋(絵本の部屋)を作ることで園児の読書環境がよくなった。	ポプラの部屋へ行く園児が増え、読書量が増えた。保護者による絵本の修復により、園児が好む本が再び蘇った。今後も、より質の高い絵本を増やしていきたい。
		⑩特別支援体制の充実	支援が必要な子どもについての実態や課題について教職員の間で理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士による行動観察とカンファレンスを実施し、支援の方法を考えた。療育担当者で連携を図り、園児に適した支援が提供できるよう努めた。	A		配慮が必要な園児の実態を職員が把握できた。情報交換を密にし、その子に合った配慮を行うよう努力した。	全職員が配慮に関する話し合いを行った支援を必要とする園児の数が増加しているため、今後も園児理解が必要である。

【奈良文化幼稚園】令和6年度 学校評価 自己評価書 II 幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	目標を共有し、チームとして連携を効果的に行い、成果をあげる。	認定こども園として園児の保育時間が増加した。役割を分担し全員が意欲をもって活動することができた。	B	A	全職員がきめ細やかに保育に取り組むことができた。行事を進めるにあたってそれぞれが自分の役割を理解し手際よく行動することができた。	職員の増加に伴い、相互のコミュニケーションが必要となった。今後も、各園児に対して目を向けながら保育を進めていきたい。
		②幼稚園経営目標・方針	経営目標、実態、数値目標について、職員が共通認識ができ、募集活動を積極的に行う。	コロナ後の少子化に伴い募集が難しくなっている。入園希望者が増えるようきめ細やかな保育・中身の濃い取り組みを進めている。	A		全職員が園の経営目標をもとに保育を実践している。保護者の満足度を上げるため、アンケート等を実施し保護者の希望に沿った保育を実践している。	認定こども園となり、園児の在園時間が延長された。園内での長時間保育に向けて、より一層きめ細やかな保育を目指していきたい。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談をきめ細やかに伝達し、協力体制を構築しているか。	クラス担任と職員が協力し、報告・連絡・相談を密にしながら保育に取り組んでいる。お互い業務に対して深い意識を持って取り組むことができた。	A		職員同士が連携を深め、同じ歩調で保育を進めることができた。担任以外であってもクラスの状況を把握し無理なく保育ができた。	職員会議での話し合いを通じて、職員同士が共通理解を深め、情報の共有を意識した保育を実践していきたい。
		④園務分掌等の連携	園務分掌や各委員会の担当が必要に応じて話し合いの時間をとることで効率よく園運営を進めているか。	園の構成人数が増えた。人によっては初めて経験する内容もあったが、全員が協力して精一杯取り組んだ。	A		園務分掌の内容を把握し、スムーズに処理することができた。毎日の保育に対して教材研究や事前準備を十分に行った。	教職員全体が同じ対応ができるよう、研修を進めることが重要である。不十分なところは、協力し合い、補完する体制を整えていきたい。
		⑤会議の運営と位置づけ	きめ細やかな保育を実践するため、職員会議の回数が多くなっているが、短時間による効率の良い会議を行っているか。	職員会議の時間を短縮するために、今年も事前に協議の内容を通知した。会議終了後には、全員が内容を把握できるように会議録をメールで配信し共通理解を図った。	B		職員会議で意見交流が活発になった。職員の負担軽減のためにメールによる議事録の確認を行った。	協議内容によっては会議の時間がのびることもあったが、各自が時間短縮に努めるようにした。全員が会議内容を把握し取り組んでいきたい。
		⑥職場の人間関係	職員数が増えた、学年間・職員間でのコミュニケーションが図れているか。	研修の時間や放課後のわずかなの時間に園児の様子について情報交換を行うことができた。	A		職員間で保育の楽しさを語りあうことができた。一人ひとりが、多くの視点から園児を見つめることができた。	お互いが活発な意見交換が行える職場を目指して、取り組みを進めている。経験年数に関係なく園児の様子を語ることができた。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の理由	課題及び改善
Ⅱ 学校経営に関するもの	(2) 研修	①園内研修	ECEQの研修をキャリアに応じて、取り入れ研修を深める。	全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した公開保育を活用した幼児教育の質向上システム(ECEQ)を研修に取り入れ、自園の良さと課題を職員自らが公開保育を通して把握することができた。	A	A	ECEQ公開保育や事前・事後研修時に参加者や講師先生からいただいた示唆を自分たちのものにしてきた。	ECEQの研修を通して学んだことが日々の保育の自信につながっている。今後も研修を深め、充実した保育を目指していきたい。
		②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、積極的に学習の機会をもつ。	富山市の西田地方保育園の視察を通して自然体験を通した取り組みを学ぶと共に、遊具作成のノウハウを伝授していただくことができた。	A		園庭を改良することで園児の遊びに広がりが見られた。自園の課題を知ることで教育の質の向上が図れた。	園児が遊具で遊ぶ姿からさらに遊びを広げていきたい。園外視察を通じて園児の遊びを考え職員の力量向上を目指していきたい。
		③研修成果の浸透	個々の研修成果を職員間で共有し、園全体の教育力の向上を図る。	研修での内容をキャリアに関係なく保育に活かすことができるよう伝達を行い、日々の保育に活かすことができた。	A		研修で学んだ内容から保育を見つめなおす機会を持つことができた。	研修を通じて明らかになった問題点を共有し、さらに話し合いを重ねることで今後の活動に活かしていきたい。
	(3) 安全管理	①安全計画の立案	保育課程・教育課程ともに危機を想定し、避難訓練などを実施する。	危機管理マニュアルの徹底、園生活が安全に送れるように訓練を行った。消防署など公的機関に協力を求め安全管理に努めた。	A	A	本年度も事前に打ち合わせを行い訓練を実施することで、細部に目を凝らした細やかな訓練が実施できた。	教職員が各自の役割を把握し、子どもたちの安全管理を徹底する訓練を行いたい。
		②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、安全指導を行い、確認・改善に努めている。	それぞれの訓練を通じて、火災、地震、不審者への対応等、色々な状況を想定した演習を行い安全に努めた。	B		状況に応じたいろいろな訓練を実施することで安全指導について改善を図ることができた。	避難訓練だけでなく、園児引き渡しカードを使った園児の引き渡し訓練なども今後計画していきたい。
		③危機管理マニュアル	園作成の危機管理マニュアルに基づき、自園の防災計画について把握する。	危機管理マニュアル及び園の防災計画について研修・訓練を行い、教職員の役割分担を徹底することで緊急の対応ができるようにした。	A		教職員それぞれの行動をシミュレーションすることで不十分なところを知るきっかけとなった。さらに良い対応がとれるように研修を行いたい。	どのような状況であっても、どの教職員も同じ対応がとれるよう十分に話し合い、危機対応を進めていきたい。
		④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所・近隣の幼稚園・小学校と連携を図る。	警察や消防署・火災報知器業者と一緒に安全確認を行うことで連携を深めることができた。市内の幼稚園や小学校と交流することで関係が深まった。	A		消防署の救急隊員に指導を仰ぎ、心肺蘇生法や緊急時の対応を学び普通救命講習終了証Ⅲを取得することができた。	訓練を定期的実施することで、初期対応を学ぶことができた。今後も関連機関との連携を強化し、コミュニケーションを図り安全に努めたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の理由	課題及び改善
Ⅱ 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	①健康診断の立案と実施(関係機関との連携)	保健所・自治体・園医との連携を図る。	健康診断を行い、その結果に基づいて園児の健康状態に関する指導を受けた。	A	A	園医による健康診断と畿央大学協力のスポーツテストを行い、運動能力と体力との関連から健康な体作りを進めた。	子どもたちが健康に留意しながら生活できるよう、園医の指導による安全生活を実現していきたい。
		②家庭との連携	流行病や予防策などを園だよりや保健だよりで伝える。	健康元気給食を提供する一方で、予防策として日常的な手洗いやうがい、消毒などを家庭に促し、子どもたちの健康を守る取り組みを行った。	A		流行病の情報や今後の対策などの情報発信を速やかに行い、家庭と協力して安全対策を行った。	コロナウイルス収束後も流行病に関する情報について、保護者が安心して対策ができるよう情報を発信したい。
	(5) 地域との連携	①地域との交流	家庭、地域との連携の機会を計画し、実践する。	園庭の開放を積極的に実施した。また、市内の幼稚園・小学校と連携し、絵本の読み聞かせや鬼ごっこなど小学校接続に向けた取り組みを進め交流を深めた。	A	A	市内小学校や幼稚園との交流により友だちの輪が広がり、地域の中で活動している実感がもてた。	今後も、地域住民や市内小学校・幼稚園児との関わりを進めることで交流の機会を拡充していきたい。
		②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA本部役員の方々においもパーティを企画・運営していただき園児たちは大喜びであった。PTAのクラブ活動やパンDAYも園の行事として計画し、連携を強化した。	A		本部役員、クラス委員が献身的に活動をしていただいたおかげで育友会と園が密接に連携を深め、PTA活動が充実したものになった。今後も一緒に活動が続けていきたい。	園の行事についての情報を保護者に通知し、計画や準備を進めることで、連携がより一層深まるよう環境を整えたい。
		③幼小・高大連携	市内幼稚園・小学校・奈良学園と協力しながら、教育実習やイベントを通じて連携を深める。	市内幼稚園・小学校との交流会や連絡会を設定した。奈良文化高等学校から120名を超える学生の幼稚園実習を受け入れた。	A		各学校との事前の連絡会を実施し、園児の連絡を密にした。いろいろと情報共有を進めることができたか。	就学前の連絡会により園児の情報共有することができた。学生の実習は年間を通じて多くの人数が参加している。
		④学校関係者評価の実施	保護者アンケートの結果をもとに学校関係者評価を実施する。	保護者を対象に園の保育内容に関するアンケートを実施し、その結果をもとに育友会本部役員による評価を行った。	A		園教育アンケートの結果をもとに、本園の改善点について指摘していただいた。	保護者会や入園説明会で園の経営方針を説明した。今後も、毎年保護者アンケートを実施し、たくさんの意見をいただきたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の理由	課題及び改善
	(6) 施設・設備	①施設、設備の管理	保育課程及び教育課程の施設点検をこまめに行い、不備をなくす。	日々、担任や学年で管理を徹底し、安全点検や清掃活動を実施している。事故がないよう日常の点検を心がけている。	B	B	保育室を清潔に保ち、ふかふかの土づくりを実践し安全な環境を心がけた。日々の点検に取り組み安全を心がけている。	環境に対する美化意識を持ち、毎日が安全に過ごせるよう日々の点検に力を入れたい。
		②遊具、用具の活用と全体管理	新しい遊具の作製と遊具の修理を行い、安全管理を徹底する。	園児が遊びこむ遊具を作製し、修理が必要な箇所が発見された場合には、迅速に修繕作業を行った。	B		教職員で日々点検を行い、業者や園庭管理アドバイザーによる修繕を行っている。園児の安全を考え修理・改修に努めている。	遊具使用中の見守りを職員が行っている。けががないよう職員が点検を行い毎日の安全性を保ちたい。
Ⅱ 学校経営に関するもの	(7) 情報管理	①公文書の収受、保管	公文書を種類別に分類し、必要な時にすぐ取り出せる状況を整える。	文書を種類別に分類して保管することで、容易に参照できるようになった。	A	A	ファイルを利用して細目ごとに区別して分類することであり、誰もが見つけやすい文書管理ができたか。	サーバーに保存することで、誰もが効率よく文書をさがし文書作成や文書管理が行えるようになった。
		②公文書の作成	速やかに間違いなく作成を行う。	期日を遵守し、間違いなく文書を作成するよう対応を行った。	A		施設型給付費の請求など事務処理を間違うことなく確実に進めることができた。	今後も、認定こども園運営に関する作成書類について、自治体の説明をうけ、正確に処理していきたい。
		③個人情報の管理、保護	子ども、保護者、家族の情報についての個人情報を守っていききたい。	個人情報の管理においては、慎重な対応が求められる。全ての教職員が情報が漏れないように注意を払った。	A		不特定多数が閲覧するホームページでは、個人情報に注意し、改良を重ねることができたか。	PCデータにはパスワードをつけて、セキュリティ強化につながるように情報管理を徹底したい。
		④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	行事や未就園児対象行事終了後に実施するアンケートの集計や取材記事の掲載を迅速に行い、情報を発信した。	A		バスキャッチシステムを導入することによりスマートフォンでの情報発信がよりスムーズになった。	バスキャッチシステムに掲載する情報が保護者のニーズに合っているか確認する。